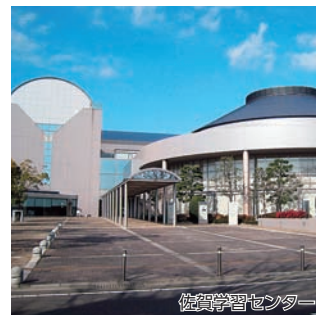


放送大学 アニュアルレビュー 2012

The Open University of Japan
Annual Review 2012



2012年度学位記授与式

2013年3月23日（土）、2012年度学位記授与式を、東京・渋谷NHKホールにおいて挙行了。当日は学部卒業生・大学院修了生と同伴者をあわせて、大勢の方々が出席した。卒業証書・学位記授与の後、岡部洋一学長式辞、下村博文文部科学大臣、南俊行総務省大臣官房審議官、齋藤成吾放送大学同窓会連合会会長からの祝辞に続き、学部卒業生総代白旗寛之さん（秋田学習センター）と大学院修了生総代柿澤史子さん（埼玉学習センター）による感動的な謝辞があった。その後全専攻または全コース卒業の42名の『放送大学名誉学生』に対し学長表彰が行われた。

2012年度の学部卒業生は4,503名、大学院修了生は313名であった。



CONTENTS

学長挨拶 ■ 2	より質の高い教育を目指して ■ 19
AAOU2012 ■ 3	ICT活用・遠隔教育センター (CODE)の活動 ■ 21
充実した教育内容 ■ 5	学習センターの活動、この1年 ■ 24
放送大学における研究 ■ 11	放送大学の新たな動き ■ 31
国際交流の取り組み ■ 15	データでみる放送大学の概要 ■ 33
社会への貢献 ■ 17	

【編集】

■放送大学アニュアルレビュー2012タスクグループ

副学長／小寺山 亘

自然と環境／濱田 嘉昭（主査）

生活と福祉／山田 知子

心理と教育／小林 真理子

社会と産業／坂井 素思

人間と文化／滝浦 真人

情報／広瀬 洋子

■総務部広報課

「放送大学アニュアルレビュー2012」は、2012年1月～2013年3月の放送大学の活動を記録したものです。

5年目のAnnual Reviewの公刊によせて



2013年8月
学 長

岡部 洋一

2012年版の Annual Review を送る。創刊が2008年版であるので、5回目の発刊である。毎年の放送大学の活動をまとめておくべきであろうということで、石前学長の元で荻野元副学長を中心に、公刊がスタートしたことをまだ鮮明に覚えている。

放送大学の1年間の活動をまとめたということで内容は多岐にわたる。教育、研究、国際交流などの活動。放送大学の独自性である放送授業、面接授業、学習センターの活動。さらに付置組織である図書館、ICT活用・遠隔教育センター（CODE）の活動を主にまとめている。

2012年のポイントは、放送大学の中期的な将来ビジョンを示した“Action Plan 2012”を策定したことである。そこには放送大学の今後の方向がほとんど示されている。例えば、「教育の質の向上への努力」については、放送教材や印刷教材などの改良に加え、CODE のプロジェクトにも、質の向上につながるものが多く組込まれ、今後の成果が期待される。

さらに全国に設置された学習センターの活性化もうたわれている。学習センターを地域の生涯学習の

拠点と位置付け、この拠点を活用した地域貢献活動が全国で高まりつつある。

また、国際化も表明されており、特にアジア公開大学連合（AAOU）の年次大会である“AAOU2012”を初めて日本で、放送大学主催のもとで開催し大変盛会であった。詳細は本文を参照してほしい。そのほかにもタイの STOU（スコータイ・タマティラット公開大学）との国際交流協定の締結をはじめとする各国との交流を行った。

2013年は大学設置30周年に加え、全国化達成15周年でもあり、放送大学の一層充実した教育を実現するために、いくつかの試みを始めつつある。たとえば「教育の質の向上」として、①学生にとってよりわかりやすいカリキュラムの提示 ②インターネットをより積極的に利用した講義の提案 ③大学院改革などを推進しつつある。

この転換期にある放送大学が目指す「卓越した教育型大学」および「多様な学生の多様なニーズに応える大学づくり」という方向を少しでも読み取っていただき、さらに今後にご期待いただけたらと思う所存である。

AAOU2012 幕張メッセで開催



2012年10月16日から18日の3日間、アジア公開大学連合 (AAOU) の第26回年次大会が本学の主催により千葉市の幕張メッセ国際会議場で開催された。

期間中は、世界22の国や地域 (ブータン、カナダ、台湾、香港、インド、インドネシア、イスラエル、日本、マレーシア、オランダ、パキスタン、フィリピン、韓国、ロシア、シンガポール、南アフリカ、スペイン、スリランカ、タイ、トルコ、ベトナム、サウジアラビア) から290名 (外国人168名、日本人122名) の参加があり大変盛況な大会となった。

本大会のメインテーマは、「変化する現代社会における公開・遠隔学習～知のフロンティアの拡大を目指して～」 (Expanding the Frontiers of Knowledge through Open and Distance Learning in Changing Societies) であり、変化する現代社会における公開大学の高等教育について活発な議論が展開された。また、メインテーマの下には8つのサブテーマが設けられた。

10月16日は、AAOU役員である岡部洋一学長らが役員会 (Board Meeting) に参加し、アジア地域における公開大学の将来と、AAOUの役割について議論するとともに、本学主催によるウェルカムディナーが催された。

大会初日にあたる17日の開会式では、ホー・シン・

チャイ AAOU 会長、岡部学長及び文部科学省生涯学習政策局の合田隆史局長からの挨拶があり、続いてユネスコ生涯学習研究所 (UIL) のアルネ・カールセン所長とコモンウェルス・オブ・ラーニング (COL) のアーシャ・シン・カンワー会長による基調講演が行われたほか、17日及び18日の2日間にわたり4名の招待講演者によるプレナリーセッションと8つのサブテーマごとの分科会が行われた。分科会では計113もの論文が発表され、本学の一部の教員や学習センター所長も各テーマで司会・報告等を行なった。

閉会式では、白井克彦理事長の挨拶に続き、今回の年次大会に提出された論文から選ばれたベストペーパー等各賞の表彰、次回のAAOU年次大会を主催するパキスタンのアラマ・イクバル公開大学の開催プロモーションなどが行われた。なお、期間中には放送大学本部、千葉学習センターの見学ツアーも実施され、3日間で約80名の外国人参加者が訪れた。

大会の準備にあたっては、1年以上前から大会準備委員として22名の教職員が関わるとともに、期間中も36名の職員及び37名の本学学生等ボランティアの協力があつた。

本大会の成功により、本学がアジアを代表とする公開大学として各国への存在を大いに示したと言えよう。

学術プログラムの特徴と放送大学の貢献

AAOU創設後30年に近い年月を経て本学で開催される大会であり、この時期にわが国で開催される意義と本学のAAOUに対する貢献を明らかにしたいという意図から、プログラムは決定された。その目玉ともいえる企画が、特別セッション「Crisis and Risk Management - The Great East Japan Earthquake of March 11: What should we learn? -」(モデレータ：奈良由美子教授・山岡龍一教授)であった。巨大災害に直面した公開大学に何ができるのか、そして国際間で何を助け合えるのか、今後の議論の発展が期待される。また、本学は公開教育資源 (OER) 運動にも積極的に関与していることから、OERに関する公開セミナーやセッションも開催された。AAOU参加大学のみ

ならず世界各国から参加者を得、OERは大会を通じ1つのキーワードになった感があった。こうした議論を受けて、大会期間中にAAOUのOER Asiaプロジェクトタスクフォースが構成され、現在、リポジトリ連携などOERを共有する枠組みが検討されている。そのほか、発表論文の質がかねてより問題にされたことからより厳密な査読方式に改めたこと、スタッフ研修の機会として活用する試みとして、図書館サービスに関するワークショップ(モデレータ：松村祥子附属図書館長・三輪眞木子教授)を開催したことも、本学からの新たな提案として記憶されるべきものと考えらる。

(プログラムTFリーダー・教授・山田恒夫)

AAOU大会開催準備にあたって

放送大学において初めて開催する国際会議ということもあり、第26回AAOU大会開催準備にあたっては、総合戦略企画室国際連携係を中心に、2年ほど前からコツコツと準備をしてきた。一回3~4時間におよぶ準備グループ打ち合わせを8回にわたって開催し、会議運営業者の選定、参加者宿泊ホテルの選定、大会ウェブサイトの立ち上げ、大会のスケジュール、会場配置・設営、リーフレット・ポスターの企画・配布、参加費・参加申し込み方法、大会中のスタッフ・ボランティア配置、余興、レセプションと夕食会・昼食会、司会、記念品・贈呈品、コンフェレンスバック、キャンパスツアー、一日観光ツアー、等々、大会に関わる様々な詳細を、大会準備グループで話し合い決定した。大会開催時期には



米1ドル=80円を切る円高であったにもかかわらず、海外から多数の参加者があり、また、大会運営に関して高い評価を頂いたことは、大変喜ばしいことであった。AAOUの会員国であるアジアには開発途上国が多く、通常では高等教育にアクセスできない人口を対象に教育を提供する公開遠隔教育の重要性が非常に高いことが、参加者からの活発な議論で窺うことができた。独自の放送局を有する放送大学は、アジアの公開大学の中でもユニークな存在であり、現地キャンパスツアー等により、その特徴を参加者に紹介することができたことも、本学がこの大会を開催した大きな成果の一つであるといえよう。

(大会準備グループリーダー・教授・青木久美子)

充実した教育内容

テレビ・ラジオによる授業

放送授業

放送授業は、面接授業と並び、放送大学の教育の中心に位置づけられるものである。2012年度第2学期（2012年10月～2013年3月）には、学部259科目、大学院71科目の合計330科目を開講しており、原則として4年間（毎年2学期間ずつ、合計8学期間）放送している。したがって、全開講科目のおよそ4分の1ずつが、毎年入れ替わる。

2012年度の新規開設科目は、学部57科目（テレビ35科目、ラジオ22科目）、大学院9科目（テレビ4科目、ラジオ5科目）の合計66科目である。

2012年度全開講科目数

	第1学期		第2学期	
	テレビ科目	ラジオ科目	テレビ科目	ラジオ科目
学 部	145	114	145	114
	259		259	
大学院	31	40	31	40
	71		71	
合 計	176	154	176	154
	330		330	

2012年度新規開設科目一覧(学部) (TV=テレビ、R=ラジオ)

大区分	中区分	小区分	科目名称	メディア
基礎科目			心理と教育を学ぶために('12)	R
			問題解決の進め方('12)	TV
			「ひと学」への招待('12) 人類の文化と自然	R
			自然を理解するために('12) 現代の自然科学概論	TV
			初歩からの物理学('12) 物理へようこそ	TV
			初歩からの化学('12)	TV
			初歩からの数学('12)	TV
			身近な統計('12)	TV
			発音をめぐる冒険('12)	TV
共通科目	一般科目	人文系	教育史入門('12)	R
			心理学概論('12)	TV
			近代哲学の人間像('12)	R
			日本文学概論('12)	R
			グローバル化時代の人文地理学('12)	TV
			生活経済学('12)	R
		社会系	社会福祉入門('12)	TV
			社会統計学入門('12)	R
			市民社会と法('12)	R
		自然系	政治学入門('12)	R
			経営学入門('12)	R
			社会のなかの会計('12)	TV
	外国語	フランス語	人体の構造と機能('12)	TV
			生物圏の科学('12) 生物集団と地球環境	TV
		韓国語	フランス語入門I('12)	TV
			フランス語入門II('12)	R
		韓国語	韓国語入門I('12)	TV
			韓国語入門II('12)	R
専門科目	生活と福祉	生活福祉	食と健康('12)	TV
			社会保険の現代的課題('12)	R
		教育	現代の生涯学習('12)	R
			地域社会の教育的再編('12)	TV
			家庭教育論('12)	R
			学校と法('12)	R
	心理と教育	心理	認知神経科学('12)	TV
			乳幼児心理学('12)	TV
			交通心理学('12)	TV
		社会と産業	都市社会の社会学('12)	R
			労働経済('12)	TV
			日本経済史('12)	R

大区分	中区分	小区分	科目名称	メディア
専門科目	社会と産業	行政法	行政法('12)	R
			現代南アジアの政治('12)	TV
			現代行政学('12)	R
		市民生活と裁判	市民生活と裁判('12)	TV
			ファイナンス入門('12)	TV
			ケースで学ぶ現代経営学('12)	TV
	人間と文化	社会技術	社会技術概論('12)	TV
			産業とデザイン('12)	TV
			博物館教育論('12)	R
		比較文化	博物館資料論('12)	TV
			博物館資料保存論('12)	TV
			博物館展示論('12)	TV
	情報	ネットワークとサービス	ネットワークとサービス('12)	TV
			データからの知識発見('12)	TV
			情報機器利用者の調査法('12)	TV
		映像メディアとCGの基礎	映像メディアとCGの基礎('12)	TV
			デジタル情報の処理と認識('12)	TV
			社会福祉と権利擁護('12)	R
総合科目	総合科目			

2012年度新規開設科目一覧(大学院)

プログラム名	科目名称	メディア
生活健康科学	居住環境整備論('12)	TV
人間発達科学	教育行政と学校経営('12)	R
臨床心理学	教育心理学特論('12)	R
臨床心理学	臨床心理学研究法特論('12)	R
社会経営科学	産業立地と地域経済('12)	TV
文化情報学	パーソナル・ネットワーク論('12)	R
	データベースと情報管理('12)	TV
	eラーニングの理論と実践('12)	TV
	情報学の新展開('12)	R

特別番組

特別講義では、各学問分野の第一人者が、その学問について深く掘り下げて講義を行っている。

2012年度は新規開設15講義（テレビ6講義、ラジオ9講義）を含む、全83講義（テレビ40講義、ラジオ43講義）の特別講義を放送した。

2012年度新規開設特別番組

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書		
画文共鳴 ～文学と美術の交流～	甲南大学文学部教授	木股 知史	TV
謎の石塔“薩摩塔”	慶応義塾大学教授	中島 圭一	TV
ネアンデルタール人滅亡 ～われわれは何を学ぶべきか～	高知工科大学教授	赤澤 威	TV
「紛争予防学」とは何か	東京外国語大学大学院教授	伊勢崎 賢治	TV
フォトジャーナリズムとは何か	フォトジャーナリスト・ DAYS JAPAN編集長	広河 隆一	TV
細胞の声を聞く	京都大学大学院教授	高橋 淑子	TV

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書		
野口英世を支えた4人の女性たち ～猪苗代からアフリカまで～	作家・早稲田大学講師	山本 厚子	R
吊うことの意味	宗教学者	島田 裕巳	R
万葉びとの生活と心情	奈良大学教授	上野 誠	R
阪神・淡路大震災と 東日本大震災	同志社大学教授	林 敏彦	R
アメリカの里親制度	活水女子大学准教授	園井 ゆり	R
原発事故と農業 ～それでも農民は種を播いた～	茨城大学教授	中島 紀一	R
アマルティア・センの 現代インド論	元アジア経済研究所地域研究部長	佐藤 宏	R
インドネシアの経済発展と エネルギー・環境政策	和光大学教授	バンバン・ ルディアント	R
モーツァルトがあなたを癒す ～謎解き! 音楽療法～	埼玉医科大学教授	和合 治久	R

インターネット配信

2007年度から、在学生用ホームページ（キャンパス・ネットワーク・ホームページ）で、授業科目のインターネット配信（ストリーミング配信）を開始している。配信科目数は年々増加しており、ラジオ科目ではほぼすべてをインターネット配信している。2012年度の配信科目数は、テレビ108科目、ラジオ154科目、特別講義54講義である。

2012年度のインターネット配信科目数

	テレビ	ラジオ
学 部	97	114
大 学 院	11	40
特別講義	18	36
合 計	126	190

寄附科目

放送大学では、様々な機関からの支援を受け、社会の要請に応じた寄附科目を開設している。2012年度には、6科目の寄附科目を放送した。

2012年度開設寄附科目一覧

科目名	寄付団体名	メディア
著作権法概論（'10）	日本音楽著作権協会	R
消費者と証券投資（'11）	日本証券業協会	TV
組織運営と内部監査（'09）	日本内部監査協会	TV
社会と銀行（'10）	全国銀行協会	TV
うま味発見100年 ～その先端科学を探る～ （特別講義）	味の素株式会社 ライフサイエンス研究所	TV
薬物治療に貢献する ～病院薬剤師の役割～ （特別講義）	日本病院薬剤師会	TV

対面による授業

面接授業は、放送授業とともに放送大学の教育の中心に位置づけられるものであり、全国50カ所の学習センターと7カ所のサテライトスペースで開講している。2012年度は、3,039科目（1学期1,490科目、2学期1,549科目）を開講している。

また、放送大学の専任教員や地元の大学教員等による対面での授業であり、教員と学生の交流だけでなく、学生同士の出会い、共に学ぶ楽しさを共有できる機会ともなっている。

授業内容は、教養学部という特性に応じた幅広い学問分野に富んでおり、授業形態も通常の講義形式だけでなく、



鹿児島学習センター「鹿児島湾洋上実習」

実験やフィールドワークなど多彩な形態で開講している。

さらに、単独の学習センターのみの開講だけでなく、各地域の特色を生かしたテーマの下でブロック間の学習センターが連携し、リレー形式でも開講している。

これまでは、学期開始後の空席状況を2週間ごとに発表していたが、2012年度第1学期から、毎日その時々空席状況をシステムWAKABAでリアルタイムに確認できるようにし、学期途中でも追加登録しやすい環境を整備した。このように意欲ある学生に、できるだけ多くの学習機会を提供できるよう制度の見直し、学生サービスの向上を常に図っている。



岐阜学習センター「幕領飛騨の風土を科学する」

図書館資料の活用のために

附属図書館では、学生が、遠隔地からでも大学の資料を活用して学習・研究することができるよう、さまざまなサービスを提供している。

これらのサービスを紹介し、利用促進をはかるため、『リブナビ2013 Library Navigator ー図書館使いこなしガイドー』を作成した。

『リブナビ』には、

- どんな資料があるのか、探すにはどうすればいい？
- 資料は、どうすれば利用できるの？
- 電子ブックは、どうやって読むの？
- パソコンで読める資料はなにがあるの？
- 自宅から電子ブックや電子ジャーナルを読みたい！

等々、図書館のサービスを有効に活用するためのヒントを多数掲載している。

リブナビ2013 ー図書館使いこなしガイドー

『リブナビ』は、附属図書館のホームページ (<http://lib.uoj.ac.jp>) で閲覧可能であるほか、附属図書館カウンター、学習センター・サテライトスペースにも冊子を用意している。



誰もが心地よく学べるために

特別な支援が必要な学生への学習支援

放送大学では、いかなる学生に対しても学習機会が失われ不利益が生じることのないよう、さまざまな学習支援体制の整備を進めている。例えば、聴覚障がいがある学生への支援としてテレビ授業科目における字幕番組を提供している。2012年度第2学期に字幕を付して放送を行った授業は68科目あり、これは全テレビ科目の約32%にあたる。特別講義についても40科目中33科目(約83%)に字幕を付して放送を行った。

また単位認定試験時には、ハンディキャップの程度に

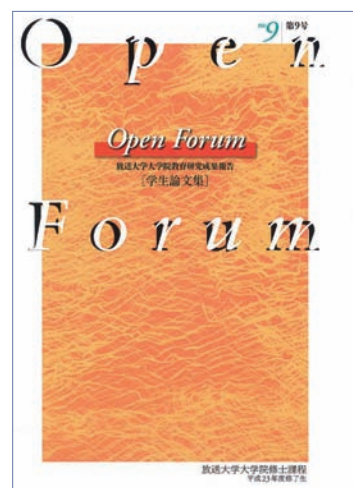
応じて、別室受験、試験時間の延長等の特別措置を講じている。たとえば、2012年度第1学期単位認定試験における音声出題の対象科目数は110科目で、対象となった学生数は延べ167名であった。また、点字での出題対象科目数は101科目であり、対象となった学生数は延べ147名であった。その他、必要に応じて、特別支援学校、病院においても単位認定試験を実施しており、2012年度第1学期は9名(延べ18名)の学生が受験した。

学生の研究成果の公開

放送大学(学部)では、学生が指導教員から直接、指導を受ける機会を提供するため、卒業研究を開設しており、毎年多くの学生が履修している。そこで2007年度より、卒業研究の履修を将来希望する学生への情報提供として、卒業研究のテーマ一覧と、研究成果である卒業研究報告書の公開を、キャンパス・ネットワーク・ホームページで開始した。2012年度は、2011年度の「卒業研究報告書テーマ一覧」と「卒業研究報告書(全文)」30点を公開した。

大学院については、修士論文を基にした学生論文集「Open Forum(放送大学大学院教育研究成果報告)」を2005年3月より刊行している。在学生や今後の入学者への情報提供のほか、大学から社会に向けた情報発信、教員

の自己点検・自己評価、修士課程の教育研究内容が具体的に見える資料として利用されることを目的としている。2013年3月刊行の第9号には2011年度修了生全380名の研究成果の中から、論文11点、研究ノート41点が掲載されている。



Open Forum 9号

オープンコースウェア

オープンコースウェア(OCW)とは「大学で正規に提供された講義とその関連情報のインターネット上での無償公開活動」のことである。

学びたい人すべてがいつでも学べる「開かれた大学教育」を目指して設置された放送大学は、オープンコースウェアの理念に賛同し、2009年日本オープンコースウェアコンソーシアムに正会員として参加、2010年から特色ある授業科目をインターネット上で公開している。

■ 2012年度オープンコースウェア科目一覧

科目名	講師	メディア
社会学入門('10)	森岡 清志	TV
中国語入門('10)	宮本 徹/木村 英樹	TV
入門線型代数('09)	隈部 正博	TV
空間とベクトル('09)	松本 幸夫/川崎 徹郎	TV
コンピュータのしくみ('08)	岡部 洋一	TV
解析入門('08)	熊原 啓作/河添 健	TV
人格心理学('09)	大山 泰宏	R
日本文学の読み方('09)	島内 裕子	R
環境と社会('09)	鈴木 基之/植田 和弘	R
教育心理学概論('09)	太田 信夫	R
公衆衛生('09)	多田羅 浩三/瀧澤 利行	R
北東アジアの歴史と朝鮮半島('09)	吉田 光男	R
心理・教育統計法特論('09)	福田 周/卯月 研次	R
特別講義:国際ボランティア学への招待	山田 恒夫・川嶋 辰彦 内海 成治・小川 寿美子	TV
特別講義:ジャーナリストの父、タレントの息子 ～明治日本に貢献したブラック親子～	柏倉 康夫	R
特別講義:世界の名著を読む 国富論から学ぶ	竹本 洋	R
特別講義:人と動物のかかわり 1. 身近な動物	石橋 正彦	R
特別講義:人と動物のかかわり 2. ネズミの話	石橋 正彦	R
特別講義:地球上最大の動物、クジラ	大隅 清治	R

科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)の拡充

放送大学では、2006年度から本学独自の制度として、科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)を導入した。これは本学が指定する特定の授業科目群を履修することにより、ある分野に目的・関心をもち、そのための学習を体系的に行ったことを証明するものである。その後、2007年に学校教育法が改正され、新たに大学等に「履修証明制度」が規定されたことを機に、2008年度からは、この「履修証明制度」に対応するものとして再スタートしている。

当初10プランで始まった本制度だが、その後、毎年新しいプランを創設し、2011年度2学期からは臨床心理学基礎プランを追加して24プランとなっている。

取得認証数は、2006年度に223、2007年度に1,092、2008年度に2,848、2009年度に2,552、2010年度では2,496、2011年度に2,250、2012年度に2,552となっており、2013年度も前年度と同程度の認証取得が見込まれている。2013年3月31日までの累計取得数は14,013にのぼっており、学生の修学目標の一つとして定着していることがわかる。

■ 2012年度認証プランと認証状取得者数(2013年3月31日現在)

認証プラン名	認証状の名称	認証状取得者数
1 健康福祉指導プラン	健康福祉運動指導者	1,793
2 福祉コーディネータプラン	福祉コーディネータ	1,517
3 社会生活企画プラン	社会企画士	821
4 食と健康アドバイザープラン	食と健康アドバイザー	447
5 心理学基礎プラン	心理学基礎	1,908
6 臨床心理学基礎プラン	臨床心理学基礎	305
7 社会探究プラン	現代社会の探究	358
8 市民活動支援プラン	市民政策論	376
9 実践経営学プラン	経営の理解	371
10 ものづくりMOTプラン	ものづくりとMOT(技術経営)を学ぶ	180
11 次世代育成支援プラン	次世代育成支援	923
12 コミュニティ学習支援プラン	地域生涯学習支援	203
13 異文化コミュニケーションプラン	異文化理解支援	570
14 アジア研究プラン	アジア研究	228
15 日本の文化・社会探究プラン	日本の文化と社会	351
16 宇宙・地球科学プラン	宇宙・地球科学	317
17 生命科学プラン	生命人間科学	582
18 環境科学プラン	環境科学の基礎	445
19 社会数学プラン	数学と社会	194
20 エネルギー・環境研究プラン	エネルギー環境政策論	169
21 芸術系博物館プラン	芸術系博物館活動支援	683
22 歴史系博物館プラン	歴史系博物館活動支援	898
23 自然系博物館プラン	自然系博物館活動支援	237
24 工学基礎プラン	工学基礎	137
合 計		14,013

他機関への教育支援

■ 単位互換の取り組み

本学は、全国の教育機関と積極的に単位互換協定を進めている。2012年度には、新たに6校の大学及び1校の大学院と単位互換協定を締結し、合計370校となった。

■ 2012年度に締結した単位互換協定締結校

大学等名
札幌市立大学
千葉県立保健医療大学
富山県立大学
富山県立大学大学院
福井県立大学
福岡県立大学
福岡教育大学

■ 専修学校との連携協力

本学では、専修学校専門課程と連携協力を実施し、専修学校専門課程に在籍しながら学士(教養)の学位を取得できる制度を設けている。

2012年度も新たに右記の2校の専修学校と連携協力の覚書を締結し、合計で24校となった。

■ 2012年度に締結した連携協力校(専修学校)

学校名
愛知総合看護福祉専門学校
山梨情報専門学校

キャリアアップを支援する

資格取得

放送大学で修得した単位は、以下の資格取得のために活用することができる。

看護師国家試験受験資格、教員免許状の上位・他教科・隣接校種の免許状、学校図書館司書教諭資格、特別支援学校教諭二種免許状（知的障害者教育領域・肢体不自由者教育領域）、養護教諭免許状、栄養教諭免許状、学芸員資格、社会教育主事任用資格、社会福祉主事任用資格、介護教員講習会の対応科目

学芸員資格に関しては、博物館法施行規則改正により、2012年度から9科目19単位の修得が必要となったが、放送大学では、博物館実習を除く8科目（うち2科目は2013年度から開講）を開講して対応することとなった。

博物館実習についても、2012年度には、放送大学初の試みとして、岐阜女子大学との連携による博物館実習講座の開講が実現した。これは、一定の要件を満たした放送大学生向けに岐阜女子大学が講座を開講するものであり、2012年度には全国から12名の学生が受講した。

また、2009年度からの教員免許更新講習制の実施に伴い、放送大学でも教員免許更新講習を実施している。本学の特性を活かし、テレビ・ラジオ及びインターネットを利用し、全国どこでも講習の受講が可能となっている。この講習は、毎年2回（夏期及び冬期）実施することとしており、2012年度の講習では、約6,000人の受講者が、延べ約22,000科目を受講した。

特別番組『シリーズ 遠隔教育』を放送

私立大学通信教育が発足して60年余り、2013年4月に放送大学が設置されて30年となることを記念して、放送大学では特別番組『シリーズ遠隔教育』を制作。日本の遠隔教育の未来を拓く2回シリーズとして、放送大学学園白井克彦理事長と私立大学通信教育協会高橋陽一理事長の対談を交えて放送した。

第1回放送では、日本の通信制大学が社会人を含む様々な学生を受け入れ日本の高等教育の発展に貢献し



ている現状を、私立大学通信教育協会加盟大学及び放送大学における様々な授業の実態や、卒業生たちへの取材を通して紹介した。

第2回放送では、2012年10月に千葉市幕張で開催されたアジア公開大学連合（AAOU）の第26回年次大会を中心に、アジア及び欧米の公開大学の取り組みを紹介しながら、世界の通信制大学の多彩な教育の現状を見つめ、通信制大学の未来を展望した。



放送大学第5回学生エッセイコンテスト

日頃から自分の考えていることや感じたことなどをエッセイを通して表現すること、並びに学生からの意見や主張を通して本学の学生や教職員、関係者をはじめ広く社会へ発信することを目的として2008年から実施している。第5回を迎えた本年度は「放送大学での学びから得たこと」というテーマの募集に対し47点の応募があり、選考委員会において厳正な審査を行った結果、12点の入賞作品を選んだ。

応募者の年齢は26歳から82歳と幅広く、所属する学習センター等も全国27センターにわたっていた。応募作品はいずれも素晴らしい作品であった。

賞	受賞者	作品名	学習センター サテライトスペース
最優秀	河村 泰伯	学歴コンプレックスとの決別	熊 本
優 秀	野口なつき	知識を受け継がせるために	静 岡
	奥田 孝道	放送大学での学びから得たこと	岐 阜
	片野 尚子	大人にも訊いてよ。大きくなったら何になる？	東京文京
	尾仲 敏郎	放送大学での学びから得たこと	姫 路
佳 作	平野 泰蔵	放送大学での学びから得たこと、伝えたいこと	北九州
	荻原 弘幸	「学び」から学ぶこと	旭 川
	江川 きぬ	夕映えの中で	東京足立
	稲垣 安代	私にとっての生涯学習と社会参加	埼 玉
	西村由美子	ア라운드50。でも女子大生	熊 本
	菅 敦子	放送大学で学んだ生きがい	埼 玉
	石川由美子	10年後の到達点	広 島

注1) 各賞毎の氏名は、応募順です。 注2) 学習センターは、応募時のものです。

放送大学における研究

特別研究と外部資金による研究

研究

放送大学では、専任教員が数多くのテーマのもと、積極的に研究を行い、その成果を世に送り出している。また、特に研究の支援・推進のために放送大学では、特別研究費の制度を設けている。放送大学の発展に寄与する教育・研究プロジェクト、学術上あるいは大学運営に貢献するプロジェクト支援として、また教員個人の研究を支援す

るためなどに資金面での支援をしている。

放送大学教育振興会など他からの助成基金も積極的に得て研究が行われている。

2012年度に特別研究として、また放送大学教育振興会・日本学術振興会の助成で実施した研究テーマは以下の通りである。

2012年度学長裁量経費I（プロジェクト支援）決定者一覧

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
	副学長	來生 新	学習サポートセンターの設置に向けての件費等の試算のためのT Aの採用と補助教材作成業務プロジェクト
生活と福祉	教 授	宮本 みち子	放送大学若年学生の実態と学習支援のあり方検討プロジェクト～学生サポートセンターのフォローコールの分析を中心にして～
	准教授	川原 靖弘	視線追跡による、教育機関webインタフェース窓口デザインの改善方法の提案と評価
心理と教育	教 授	小野 けい子	放送番組版「箱庭療法」多言語教材の作成に関する研究
社会と産業	教 授	東 千秋	放送大学の国際協力の一環としてブラジルに印刷教材を贈る
	教 授	河合 明宣	学習センターの地域貢献に果たすサークル活動の役割—育成する地域リーダーの抽出—
	教 授	坂井 素思	「知識循環」と学生の「学習知識探索」に関する研究
人間と文化	准教授	秋光 淳生	音声添削システムにおけるユーザビリティ向上に向けたシステムの改良
	准教授	秋光 淳生	教育の質向上にむけたeポートフォリオシステムの構築
自然と環境	教 授	熊原 啓作	『マルチメディア統計百科事典』の改訂とその活用
附属図書館	館 長	松村 祥子	図書館情報有効利用推進プロジェクト ～いつでもどこでも使える図書館を目指して～
ICT活用・遠隔教育センター (ICT活用・遠隔教育推進部門)	教 授	広瀬 洋子	障がい者支援プロジェクト： 放送大学の字幕制作の生産性向上・コスト削減にむけて
ICT活用・遠隔教育センター (国際連携部門)	教 授	青木 久美子	放送大学の面接授業における授業デザイン可視化・共有プロジェクト
	准教授	辻 靖彦	ストリーミング配信映像と連携した多方向型Moodle教材作成機能の開発

2012年度学長裁量経費II（研究助成）決定者一覧

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
生活と福祉	教 授	井上 洋士	HIV 陽性者による施策モニタリングとニーズ把握体制のあり方についての研究
ICT活用・遠隔教育センター (大学支援部門)	准教授	芝崎 順司	教員等が利用しやすい補助教材作成テンプレートの開発
ICT活用・遠隔教育センター (ICT活用・遠隔教育推進部門)	教 授	苑 復傑	中国の大学における国際展開体制に関する実証的研究
	教 授	近藤 喜美夫	高臨場感を伴う遠隔コミュニケーションのための没入型インタフェースの開発

■ 放送大学教育振興会助成による研究：
多様なメディアの研究開発助成、教育システムの研究開発助成、教材の研究開発助成

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
社会と産業	教 授	河合 明宜	テレビ科目「途上国を考える」制作のための事前調査（映像及び資料収集）
ICT活用・遠隔教育センター (ICT活用・遠隔教育推進部門)	教 授	近藤 喜美夫	放送教育への双方向性付与による学習支援手法の研究
ICT活用・遠隔教育センター (国際連携部門)	教 授	児玉 晴男	ラジオ番組とテキスト情報とを融合したネット教材開発に関する研究
	教 授	三輪 眞木子	放送大学生のデジタルリテラシーを支援する知識共有手法の研究

■ 放送大学教育振興会助成による研究：国際調査助成、海外への教材普及助成、国際交流助成

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
	副学長	二宮 皓	国際交流の推進研究
生活と福祉	教 授	松村 祥子	生活時間についての国際比較研究
自然と環境	教 授	松本 忠夫	熱帯開発途上国における生物自然環境の現況、その保全活動状況に関する現地調査、及びその放送大学教材作成への反映
ICT活用・遠隔教育センター (国際連携部門)	教 授	青木 久美子	英国政府の高等教育改革がオープン・ユニバーシティ（OU）に与える影響に関する調査
神奈川学習センター	所 長	濱田 嘉昭	学習センターにおける国際性推進による活性化プロジェクト：本学学生と地域の留学生（例：横浜国立大学留学生等）の交流

■ 放送大学教育振興会助成による研究：機関特別推進研究等に係る助成

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
	副学長	來生 新	高大連携を含む単位互換・連携協力の推進及び資格取得教育の支援充実

■ 日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究（氏名は代表者）

所 属	職 名	氏 名	研究種目	研究課題名
自然と環境	教 授	岸根 順一郎	新学術領域	超低速ミュオンをプローブとするカイラル磁性結晶のダイナミクス探索
ICT活用・遠隔教育センター (大学支援部門)	教 授	加藤 浩	基盤A	生涯学習ポータルサイトにおける学習コミュニティ形成支援機能の研究
ICT活用・遠隔教育センター (国際連携部門)	教 授	山田 恒夫	基盤A	国際的な生涯学習コミュニティ構築のための学習コンテンツ共有・流通システムの研究
	副学長	二宮 皓	基盤B	PISAの受容に見る国際標準化とダイバーシティの対話の可能性に関する実証的研究
	副学長	吉田 光男	基盤B	戦前期日本人研究者による朝鮮知の構築
	教 授	井上 洋士	基盤B	HIV陽性者のヘルス・プロモーション支援に向けた当事者参加型調査研究
	教 授	大曾根 寛	基盤B	障害をめぐるEUの政策と各国の相互作用に関する国際比較研究—社会的包摂に向けて—
生活と福祉	教 授	奈良 由美子	基盤B	生活の安全・安心の実現とリスク管理・リスクコミュニケーションについての比較文化研究
	教 授	宮本 みち子	基盤B	労働市場から排除された若者を支援する政策手法とその評価に関する国際比較研究
心理と教育	教 授	小川 正人	基盤B	2000年代以降の分権・行財政改革下における地方教育行財政の変容に関する調査研究
人間と文化	教 授	草光 俊雄	基盤B	ロマン主義時代の旅行記とその歴史的背景～国家意識・国民意識の変容を中心にして～
自然と環境	教 授	米谷 民明	基盤B	ゲージ重力対応と非摂動的超弦理論の構築
ICT活用・遠隔教育センター (ICT活用・遠隔教育推進部門)	准教授	浅井 紀久夫	基盤B	技能伝承のための触力覚協調インタラクションによる分散訓練環境の構築
	准教授	近藤 智嗣	基盤B	博物館における複合現実感共用システムの構築と科学的思考の育成に関する縦断的研究
ICT活用・遠隔教育センター (国際連携部門)	教 授	三輪 眞木子	基盤B	情報専門職教育における学位・資格の国際的な同等性と互換性に関する研究
宮城学習センター	所 長	原 純輔	基盤B	情報化社会における青少年の性行動の実態の解明と性教育の評価に関する実証研究
生活と福祉	教 授	小城 勝相	基盤C	メタボリックシンドローム予防食品成分の評価法の確立とその応用
社会と産業	教 授	梅于野 晃	基盤C	3DCAD対応数値シミュレーションを取り入れた建築環境設計の授業プログラムの開発
	准教授	斉藤 正章	基盤C	音楽産業の国際経営とその課題
人間と文化	教 授	宮下 志朗	基盤C	「文芸の共和国」としてのプランタン＝モレトゥス出版工房の総合的研究——第二期

■ 日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究（氏名は代表者）

所 属	職 名	氏 名	研究種目	研究課題名
自然と環境	准教授	二河 成男	基盤C	昆虫が水平転移により共生細菌から獲得した遺伝子群の進化と機能
ICT活用・遠隔教育センター (ICT活用・遠隔教育推進部門)	教 授	黒須 正明	基盤C	ユーザエクスペリエンス評価手法の開発
	准教授	大西 仁	基盤C	触知覚・運動モデルに基づく触覚通信の品質向上
ICT活用・遠隔教育センター (国際連携部門)	教 授	青木 久美子	基盤C	ICTを活用した「ジェネリックスキル」の効果的育成に関する調査研究
	准教授	鈴木 一史	基盤C	局所形状特徴に基づく3次元物体モデルの分類と検索
広島学習センター	所 長	安原 義仁	基盤C	イギリスの学外試験委員制度に関する歴史的研究 —高等教育の質保証に着目して—
生活と福祉	教 授	井上 洋士	挑戦萌芽	患者向けネット上情報とバーチャルコミュニティの再構成、 及びその効果についての研究
ICT活用・遠隔教育センター (大学支援部門)	教 授	加藤 浩	挑戦萌芽	状況内評価における評価表出行動自動収集分析システムの研究
ICT活用・遠隔教育センター (ICT活用・遠隔教育推進部門)	准教授	浅井 紀久夫	挑戦萌芽	拡張現実感を利用した科学館展示における学習環境の研究
生活と福祉	准教授	川原 靖弘	若手B	物流における屋内外シームレス測位システムの研究
	准教授	戸ヶ里 泰典	若手B	成人労働者におけるストレス対処能力SOCの形成に関する縦断研究
心理と教育	准教授	森 津太子	若手B	裁判員の量刑判断におけるヒューリスティクス利用とその既定因
ICT活用・遠隔教育センター (大学支援部門)	准教授	葉田 善章	若手B	映像マルチメディアによるアノテーションを使った モバイル学習環境の構築
ICT活用・遠隔教育センター (ICT活用・遠隔教育推進部門)	助 教	杉山 秀則	若手B	複数コンソーシアムを横断した教材共有化システムの開発
ICT活用・遠隔教育センター (国際連携部門)	准教授	森本 容介	若手B	教育・学習コンテンツの再利用を促進する環境の構築と評価

■ 日本学術振興会の最先端・次世代研究開発支援プログラムによる研究

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
ICT活用・遠隔教育センター (大学支援部門)	教 授	仁科 エミ	ハイパーソニック・エフェクトを応用した健康・快適なメディア情報環境の構築

放送大学研究年報

『放送大学研究年報』は、放送大学の専任教員が日頃の研究成果を発表する場である。2012年版を2013年3月に発行した。

■ 放送大学研究年報 第30号 2012年

氏名(コース・部門)	共著者	研究課題名
大場 登教授 (心理と教育)		河合隼雄の心理療法(論)
佐藤 仁美准教授 (心理と教育)		認知療法的視点を加味したイメージ表現療法の可能性 ～コラボレーション～
住田 正樹教授 (心理と教育)	山瀬 範子 片桐 真弓	保護者の保育ニーズに関する研究 —選択される幼児教育・保育—
森 津太子准教授 (心理と教育)		社会心理学における自由意思をめぐる問題I —2009年SPSP年次大会での討論を手がかりに—
北川 由紀彦准教授 (社会と産業)		<ホームレス対策>の展開過程 —東京(区部)における「厚生関係施設」と「路上生活者対策」に注目して—
青山 昌文教授 (人間と文化)		現代日本美術におけるレアリズムの意義について
内堀 基光教授 (人間と文化)	大石 高典 山下 俊介	放送大学放送教材の素材映像アーカイブ化 —特別講義「HUMAN:人間・その起源を探る」のラッシュ・フィルムを事例に—
吉岡 一男教授 (自然と環境)		成長曲線からの大気パラメータの決定のための 疑似焼きなまし法のいくつかの改良点
井口 篤准教授 (人間と文化)		伝えるということ —公開遠隔教育、ICT、そして教養教育の苦境—
黒須 正明教授 (ICT・遠隔教育センター)		ユーザエクスペリエンスにおける感性情報処理
島内 裕子教授 (人間と文化)		『徒然草拾穂抄』の注釈態度 —近世前期の徒然草注釈書を展望しながら—



放送大学研究年報 第30号

研究成果の発表・普及

放送大学の専任教員・学習センター所長は、研究成果を発表し共有・普及するために、印刷教材以外にも、多数の書籍を編集・執筆している。

また辞書・辞典の編纂も行っている。これらの書籍は市販されていて購入することが可能である。また、放送大

学や公共の図書館などに所蔵されているので、閲覧可能である。放送授業や印刷教材の内容とは異なりより専門的かつ先進的な内容を含んでいるので、各教員が日々取り組んでいる研究テーマや研究活動・成果に深く触れる絶好の機会となるので積極的に手にとってみて欲しい。

専攻・氏名		書籍名 辞典名	出版社
生活と福祉	大曾根 寛	チャレンジ 現代社会と福祉 ―(社会福祉原論)を現場から学ぶ(分担執筆)	法律文化社
		新・講座社会保障法第2巻『地域生活を支える社会福祉』(分担執筆)	法律文化社
	田城 孝雄	日本再生のための医療連携(共著)	株式会社スズケン(80周年記念書籍)
	松村 祥子	世界のソーシャルワーカー(共著)	簡井書房
社会と産業	高橋 和夫	イランとアメリカ/歴史から読む「愛と憎しみ」の構図	朝日新聞出版
		いま知りたい学びたい日本の領土と領海	日本文芸社
		世界の見方、個の選択(共著)	新泉社
	梅干野 晃	建築の環境設計	数理工学社
人間と文化	稲村 哲也	続生老病死のエコロジー ―ヒマラヤとアンデスに生きる身体・ところ・時間(共編著)	山川出版社
	内堀 基光	Evolution of Human Sociality	Kyoto University Press/Trans Pacific Press
	五味 文彦	日本史の新たな見方、捉え方 中世史からの提言	敬文舎
		鴨長明伝	山川出版社
	島内 裕子	吉田健一 生誕100年、最後の文士(共著)	河出書房新社
		精選女性随筆集 森茉莉・吉屋信子(巻末解説)	文藝春秋
		すらすら読める方丈記 中野孝次(巻末解説)	講談社
	宮下 志朗	『第五の書』ラブレ著(翻訳・解説)	筑摩書房
		『エセー5』モンテーニュ著(翻訳・解説)	白水社
		『18世紀印刷職人物語』ニコラ・コンタ著(翻訳・解説)	水声社
自然と環境	米谷 民明	数理物理 私の研究(分担執筆)	丸善出版
国際支援部門	加藤 浩	教育学における学習評価(共著)	ミネルヴァ書房
		教師のための情報リテラシー(共著)	ナカニシヤ出版
		状況と活動の心理学:コンセプト・方法・実践(共著)	新曜社
国際連携部門	三輪 眞木子	情報行動―システム志向からユーザ志向へ	勉誠出版
新潟学習センター	伊藤 忠雄	連携を求めて、山と里と海の民 にいがた流域に行く	新潟日報事業社
広島学習センター	安原 義仁	近代ヨーロッパ大学史-啓蒙期から1914年まで- R.D.アンダーソン著(翻訳)	昭和堂
徳島学習センター	中條 信義	Pentobarbital inhibits glucose uptake, but not water transport bu glucose transporter type 3	NeuroReport

国際交流の取り組み

2012年は、第26回アジア公開大学連合（AAOU=Asian Association of Open Universities）年次大会を主催するとともに、国際遠隔教育会議の遠隔教育機関長会議（ICDE-SCOP）及び日中韓セミナーへの参加、新たな国際交流協定の締結など、国際交流に積極的に取り組んだ。

ICDE-SCOP2012会議への参加

2012年11月12日から15日にかけて、世界各国の遠隔教育に関する情報共有等を行うことを目的とした国際遠隔教育会議の遠隔教育機関長会議2012（ICDE-SCOP2012=Standing Conference of President）がアラブ首長国連邦・ドバイで開催され、本学から岡部学長ら3名が参加した。



第4回 日中韓セミナー



2012年9月17日、第4回日中韓セミナーが韓国放送通信大学校（KNOU）において開催された。今回のテーマは「Future of ODL for 'Knowledge Network Society」であり、本学から岡部学長、吉田副学長、井口准教授、大橋准教授ら計6名、韓国放送通信大学校から15名、国家開放大学（OUC）及び中国国内の公開大学から9名が参加した。

各大学からの学長挨拶では、岡部学長が韓国放送通信大学校創立40周年及び国家開放大学の改名に対し、お祝いの言葉を述べた。

セッション1「Collaboration Programs at OUI: Credit

Transfer Arrangements and Alliance Schools」では大橋理枝准教授から、放送大学が日本の高等教育機関とどのような単位互換協定を取り結んでいるかについて、続くセッション2「OER: Hopes and Fears」では井口准教授から「公開教育資源（OER）」の放送大学における現状と、OERが根源的に持ちうる問題点などが発表され、いずれも活発な議論が展開された。



9月18日には、韓国放送通信大学校の歴史館やデジタルメディアセンター、ソウル地域キャンパスをそれぞれ視察した。2013年の日中韓セミナーは本学で開催の予定である。

国際交流協定

2012年度は、タイ及びスペインの公開大学2校と新たに国際交流協定を締結した。

2012年5月15日、本学とタイのスコタイ・タマティラット公開大学（STOU）との間で、TV会議システムを通して、和やかな雰囲気の中、両学長の出席により国際交流協定が締結された。

2012年9月27日、スペインのマドリッド公開大学（UDIMA）と本学のICT活用・遠隔教育センター（CODE）の間で国際交流協定が締結された。

これにより、本学の国際交流協定校数は9校となった。

また、2012年7月1日、2009年に国際交流協定を締結していたイギリス公開大学（OU）と、交流協定を再締結した。



TV会議システムによるSTOUとの国際交流協定調印式

放送大学への海外からの来客

2012年も、下記のとおり海外からの来客が遠隔教育に関する情報交換等のために本学を訪れた。

月 日	訪 問 者
4月25日	東欧大学関係者訪問団（7名）
5月17日	オーストラリア ディーキン大学教授来訪（1名）
9月20日	JICA沖縄 デジタルビデオ教材制作研修員訪問団（アフリカ、東南アジア等）（7名）
11月5日	タイSTOU教員来訪（2名）



東欧大学関係者



タイ（STOU）教員来訪

学習センターの国際交流

学習センターにおいても、本学の教職員が推進する国際交流が盛んに実施された。

ブータン王立大学関係者の招聘

本学河合明宣教授の企画・運営により2012年10月ブータン王立大学シェルブツェ・カレッジのシンゲイ・ナムギャル学長を「2012AAOU年次総会参加と日本中山間農村視察」等で招聘した。ブータンは山国で道路交通事情が不備であるためインターネットによる公開遠隔教育を検討している。今回AAOU総会参加、文京学習セ

ンター視察を通して資料を収集し、中山間農村（群馬県みなかみ町内）を視察した。

10月21日群馬学習センターほかの共催により、みなかみ町でブータン及びGNH（国民総幸福）紹介の講演会と、参加地域住民との交流を目的に「ブータンデー」を開催し80余名が参加した。



国際交流クルーズ

2013年2月16日に、神奈川学習センターは教職員一丸となって横浜港を船で巡る国際交流クルーズを主催した。対象は放送大学学生、神奈川県在住の外国人及び国際交流・生涯学習に関心のある一般の方々と、世界各国からの外国人を含むおよそ200名が参加した。船上では、

横浜港や外国人居留地の歴史についてフェリス女学院大学・大西比呂志教授の講義により理解を深め、参加者は和やかに語り合い、国際理解と友好が図られた。また、学習センター所属学生・同窓生のボランティアが教職員と共に運営に参加した。



社会への貢献

本学は「開かれた大学」として、建学以来、熱心に社会貢献に取り組んできた。
多岐にわたる社会貢献活動を行っているが、ここではその中から、本学の教員が行った活動の一部を紹介する。

日本学術会議

日本学術会議は、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年(1949年)1月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立された。職務は、以下の2つである。

- 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
- 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野の約84万人の科学者を内外に代表する機関であり、210人の会員と約2000人の連携会員によって職務が担われている。

日本学術会議の役割は、主に1.政府に対する政策提言、

- II.国際的な活動、III.科学者間ネットワークの構築、IV.科学の役割についての世論啓発である。

本学の教員も連携会員に選ばれ、その活動に貢献している。

下表は本学の会員加入状況を示すものである。

■ 日本学術会議での会員（連携会員）加入状況

氏名	職名	専門分野
内堀 基光	教授	地域研究
小川 正人	教授	心理学・教育学
宜保 清一	沖縄学習センター所長・特任教授	農学
原 純輔	宮城学習センター所長・特任教授	社会学
松本 忠夫	教授	統合生物学
宮本 みち子	教授	社会学

学会、国、地方自治体等での活動

本学の教員は学識者として、それぞれの専門性を生かし、社会において幅広く活躍している。活躍の場は学会のみならず、国・地方自治体等へのでの様々な組織で活動し、社会の発展に寄与している。以下にその一部を紹介する。

氏名	職名	役職
松村 祥子	図書館長	日仏社会学会理事
宮本 みち子	教授	労働政策審議会委員、中央教育審議会臨時委員、社会保障審議会委員、千葉日報千葉教育大賞審査委員長
大曾根 寛	教授	日本社会保障法学会・監事、名古屋市障害者施策推進協議会会長、名古屋市障害者・高齢者権利擁護センター事業運営委員会委員長、四日市市地域福祉計画策定委員会・委員長
田城 孝雄	教授	内閣官房地域活性化統合本部 地域再生評価・調査委員会委員長、内閣官房地域活性化統合本部中心市街地活性化評価・調査委員会委員、厚生労働省医政局地域医療再生計画に係る有識者会議委員、世田谷区保健福祉審議会委員、内閣官房地域活性化統合本部健康・医療のまちなかづくりに関する有識者・実務者会合座長
奈良 由美子	教授	文部科学省科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会安全・安心科学技術委員会委員、内閣府独立行政法人評価委員会原子力安全基盤機構分科会委員、文部科学省科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会研究評価部会臨時委員、文部科学省科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 共同利用・共同研究拠点に関する作業部会 特色ある共同利用・共同研究拠点に関する専門委員会委員、独立行政法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター領域アドバイザー（担当領域「コミュニティがなく安全・安心な都市・地域の創造」研究開発領域）、ペリエアム審議会委員
小川 俊樹	教授	(財)日本心理学会理事、日本ロールシャッハ学会常任理事
小川 正人	教授	文部科学省・第6期中央教育審議会(副会長、初等中等教育分科会長、高等学校教育部会長)、文部科学省第7期中央教育審議会(副会長、初等中等教育分科会長、教育制度分科会長)、東京都足立区教育委員、日本学術会議連携会員、兵庫教育大学監事、日本教育行政学会・日本教育経営学会・日本教育学会の各理事
岡田 光正	教授	(社)環境科学会会長、(社)日本水環境学会顧問、(社)廃棄物資源循環学会評議員、環境省有明海・八代海総合調査評価委員会委員長、環境省中央環境審議会委員、同水環境部会長、広島市環境審議会会長
高橋 和夫	教授	文化遺産国際協力コンソーシアム、西アジア分科会委員
原田 順子	教授	総務省独立行政法人評価委員会専門委員、神奈川県医療費検討委員会委員
梅干野 晃	教授	日本学術会議連携会員、日本赤外線学会会長、日本ヒートアイランド学会会長、神奈川県公害審査会委員
内堀 基光	教授	日本学術会議連携会員
五味 文彦	教授	文化庁文化審議会世界文化遺産・無形文化遺産部会世界文化遺産特別委員会委員
宮下 志朗	教授	学位授与機構学位審査会専門委員(文学・神学専門委員会、主査)
米谷 民明	教授	岡山量子科学研究所評議員(岡山県)
加藤 浩	教授	総務省委託事業「大規模災害時に被災地の通信能力を緊急増強する技術の研究開発(災害時避難所等における局所的同報配信技術の研究開発)」研究開発運営委員
黒須 正明	教授	総務省ICT超高齢社会構想会議WG委員、人間中心設計推進機構理事
児玉 晴男	教授	企業法学会(日本学術会議協力学術研究団体)理事、電子ジャーナル「企業法学研究」編集委員長
三輪 眞木子	教授	国立国会図書館納本制度審議会委員
築和 正格	北海道学習センター所長	北海道都市地域学会会長
原 純輔	宮城学習センター所長	日本学術会議連携会員
酒井 善則	東京法政学習センター所長	総務省情報通信行政・郵政行政審議会委員、総務省独立行政法人評価委員会委員長、大学評価・学位授与機構学位審査会審査委員、総務省戦略的情報通信研究開発推進制度プログラムディレクター
伊藤 忠雄	新潟学習センター所長	新潟県中山間地域活性化検討委員会座長、新潟県担い手認定審査委員会委員、新潟県食育推進協議会会長、上越市食料・農業・農村審議会会長、上越市都市計画審議会、委員
鈴木 敏男	福井学習センター所長	日本物理学会代議員
古田 善伯	岐阜学習センター所長	岐阜県公安委員会委員、岐阜県教育委員会「ぎふスポーツ推進計画」策定委員会委員、岐阜市教育委員会岐阜市スポーツ推進計画策定検討委員、岐阜県体育協合理事、岐阜県イベント・スポーツ振興事業団理事、国立大学法人岐阜大学評価室員、岐阜県体育協会第67回国民体育大会岐阜県選手団・総務、日本教育医学学会会長、第67回日本体力医学会大会大会長
上野 達彦	三重学習センター所長	地方労働審議会会長、最低賃金審議会会長代理(厚生労働省)、三重県開発審議会会長、ケーブルテレビ(ZTV)番組審議会会長、三重県生協連会長、亀山市コンプライアンス委員会会長、三重県犯罪のない安全・安心審議会会長
宜保 清一	沖縄学習センター所長	日本学術会議連携会員「地域総合農学分科会、委員」、(公社)日本地すべり学会九州支部長

一般向け講演会

大学で培われた教育ならびに研究の成果を広く社会に提供することは、大学と社会との垣根を取り去り、相互のさらなる発展を期待する上で重要である。本学の教員は、

その専門知識を、講演会を通じて社会に還元している。

以下にその活動の一部を紹介する。

■ 一般向け講演会

氏名	職名	テーマ	共催等
岡部 洋一	学長	スキーマの科学、登山の科学	千葉県教育委員会
吉田 光男	副学長	韓流歴史ドラマに見える朝鮮時代史像	
大曾根 寛	教授	生活援助員養成研修	名古屋市社会福祉協議会
		「障がい者・高齢者を取り巻く状況と権利擁護事業」	高齢者・障害者の権利擁護を考える会(於:名古屋市)
		障害関係法制の動向～障害者総合支援法を中心に～	名古屋市社会福祉協議会
		市民後見人候補者養成研修「市民後見人の責任と役割」	NPO法人権利擁護支援ぶらっとほーむ(於:名古屋市)
		権利擁護の人づくり講座ー権利擁護と地域社会	厚生労働大臣指定講習講師、於:千葉市
宮本 みち子	教授	労働関係法律と職業リハビリテーション	法政大学キャリアデザイン学部
		無縁社会をどう超えるか	長野県高校校長研修会
		困難を抱える若者を学校と地域で支える	新宿区主催
山田 昌弘	中央大学教授	女性のワークライフバランスを考える	東京文京学習センター
永瀬 伸子	お茶の水女子大学教授		
宮本 みち子	放送大学教授		
小川 正人	教授	教育委員会制度改革の動向とゆくえ	東日本市町村教育委員会研究協議会
		教育委員会制度改革の動向と教育委員会活発化に向けて	栃木県市町村教育委員会研修会
		近年の教育政策と課題	全国市区町村教育長セミナー
梅干野 晃	教授	3D-CADを用いた建築・都市熱環境予測・評価ツール	日本ヒートアイランド学会
		一環境負荷の小さい快適な街づくりのための設計支援・コミュニケーションのためにー	
星 薫	准教授	ヒートアイランド対策を評価するー対策の普及へ向けて評価ツールー	京都大学
五味 文彦	教授	幸福な老いを目指して	藤沢市教育委員会
臼井 永男	教授	日本史の中の湘南	茅ヶ崎市
島内 裕子	教授	足と履物の科学	平塚市
御厨 貴	教授	徒然草と現代	東京文京学習センター
濱田 嘉昭	神奈川学習センター所長	政治は再生するか	高知学習センター
本田 隆成	静岡学習センター所長	環境問題における嘘(うそ)と真(まこと)	神奈川学習センター
伊藤 忠雄	新潟学習センター所長	遠州における徳川・竹田両氏の攻防	静岡学習センター
池原 健二	奈良学習センター所長	これからの食と農を考える	新潟学習センター
中條 信義	徳島学習センター所長	生命の起源・進化と生きる意味	奈良学習センター
崎元 達郎	熊本学習センター所長	超高齢化社会におけるライフスタイル	徳島学習センター・徳島市立図書館共催
宜保 清一	沖縄学習センター所長	地震と建物ーあなたの家は大丈夫?ー	熊本学習センター
		大学の地域支援	農村計画研究部会ー第34回現地地研修集会



シンポジウム「女性のワークライフバランスを考える」



島内教授「徒然草と現代」



御厨教授「政治は再生するか」



岡部学長「スキーマの科学、登山の科学」

より質の高い教育を目指して

じっくり3年かけて授業科目を作成

よりよい教材作成のために、教材作成スケジュールは、印刷教材を作成した後に、放送教材の制作を行っている。また、再校の段階で学習センター所長などによる印刷教材のフレンドリーアドバイスを実施し、その内容や表現などについて、学生教育の立場に立って助言や意見をもらい、学生教育の質的向上を図ることとした。

本年は2015年度開設科目について主任講師会議を開催した。主任講師とは、放送授業科目について、印刷教材の執筆、放送教材の制作、通信指導問題と単位認定試験問題の作成・採点、質問票への対応を行う責任教員のことである。

本学の講義は、放送授業と面接授業からなる。どちらも放送大学の専任教員に加えて、他大学等の諸機関に所属する教育・研究者にも、客員教員や非常勤講師として講義を担当していただいている。これらの客員教員や非常勤講師には、本学や学生の特性について、事前に書面や面談にて周知しているが、特に放送授業の主任講師にとっては、放送での講義や印刷教材の執筆、通信指導、単位認定試験の問題作成等、他大学では未経験の業務が多数ある。そのため、本学では、放送授業の制作に先立って、主任講師となる専任及び客員教員を一同に集め、放送授業に関する諸事項について説明をしている。そこには、教材作成に携わる担当プロデューサー、ディレクターや印刷教材編集担当者も同席し、よりわかりやすい教材作成のための意見交換も行っている。

放送大学主任講師会議（2015年度開設科目）
2012年9月14日（金）

議事次第

【全体会】

1. 全体会開会
2. 学長あいさつ
3. 出席者紹介等
4. 教材作成等の留意事項について
5. 質疑応答
6. 全体会閉会

【部会】

7. コース別・プログラム別部会開会
8. 業務概要説明
9. 意見交換
10. コース別・プログラム別部会閉会



主任講師会議

FD (Faculty Development) の取り組み

Faculty Development (FD) の一環として、2013年2月13日(水)に教員懇談会と合同で講演会を開催した。

今年度の取組みは放送教材の制作に関するテーマを題材に、教員、ディレクター、プロデューサー等の放送教材の制作関係者からの講演を行った。

高橋和夫教授、武谷祐二ディレクターからは、実際に、2013年度新規開設科目である「現代の国際政治(13)」の制作にあたって工夫した点などについての紹介があった。

瀬古章プロデューサーからは、学生による授業評価結果データをもとに、放送授業のどんな演出が学生に評価されるかについての講演があった。

高比良一道制作部長からは、実際のテレビとラジオの事例をもとに、放送授業の創意工夫への手がかりについての講演があった。

3講演の終了後、参加者からの質疑応答があり、活発な論議が展開された。

【FD講演会】

2月13日(水)

- ① 講演テーマ：「現代の国際政治(13)」を制作して
講 師：高橋 和夫 教授、武谷 祐二 ディレクター
- ② 講演テーマ：放送授業 どんな演出が学生に評価されるのか
講 師：瀬古 章 プロデューサー
- ③ 講演テーマ：放送授業・創意工夫への手がかり
講 師：高比良 一道 制作部長

【FDセミナー】

4月24日(火)、25日(水)

講演テーマ：放送教材作成セミナー

講 師：高比良 一道 制作部長

9月14日(金)

講演テーマ：スタジオでの番組制作講習会

講 師：高比良 一道 制作部長

9月18日(火)

講演テーマ：遠隔教育・学習におけるSNSの活用

講 師：岡部 洋一 学長、葛貫 壮四郎 氏、苑 復傑 教授、森本 容介 准教授

9月19日(水)

講演テーマ：「初歩からのパソコン」授業実践に向けて

講 師：高橋 秀明 准教授

2月12日(火)

講演テーマ：ICTを利用した学生の遠隔指導
～ちょー助、DropBox、スカイプを利用した経験から

講 師：黒須 正明 教授

講演テーマ：Microsoft Wordの機能を活用したレポート指導
～添削・遠隔指導のささやかなノウハウ～

講 師：仁科 エミ 教授

2月27日(水)

講演テーマ：「初歩からのパソコン」実践報告会

講 師：高橋 秀明 准教授



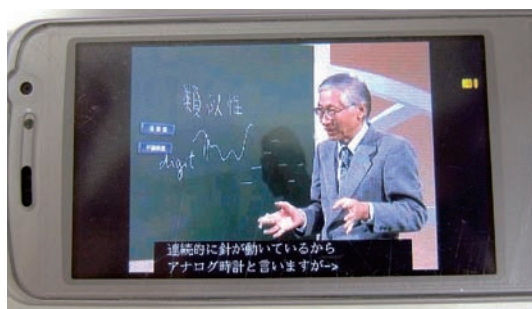
ICT活用・遠隔教育センターの活動

ICT活用・遠隔教育センター (CODE) はeラーニングや教育コンテンツなどの新しい学びを創造し、放送大学のICT化を推進している。

字幕でひろがるメディア学習

TV放送字幕化100%は喫緊の日本の課題である。米国ではTV番組はすでに100%字幕化され、本年度はインターネットの公共映像の全面字幕化が発令された。放送大学の字幕付与率は現在30%であるが、聴覚障害者のみならず、一般学生からも学習効果があると要望が高い。また、今後の情報化の進展を見据えれば、多言語化、映像教材インデックス化、携帯端末字幕、ePub教材(テキストと映像の融合)などにおいて字幕の重要性は増大する。

1) クラウド型字幕作成システムの実用実験：時間と労力、集中力が必要となる音声書き起こし作業にクラウドソーシングを活用し、複数の入力者がどこからでも参加できる手法の開発を行い、実際の放送授業の字幕化に参加した。



携帯端末を対象とした字幕作成

2) 字幕データを用いた検索方法：字幕は講義映像を検索する際のメタデータとしても有用となる。字幕テキストが類似する映像部分を近くに配置することによる検索手法を実現した。

3) 携帯端末を対象とした動画配信のための字幕作成：2010年度に開発したフィーチャーフォンを対象としたコンテンツ配信システムにて配信を行っている放送教材の一部に字幕を付与した。視聴環境が多様となることを考慮し、映画字幕などを参考に検討を行った上で作成した。

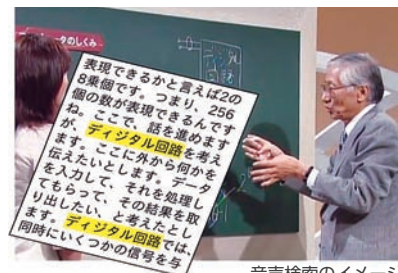


字幕データを用いた検索方法

大規模音声検索プロジェクト

インターネット上で映像や音声のコンテンツを利用する機会が増えるとともに、コンテンツ数も急激に増加している。放送大学でも、在学生を対象とした放送番組のネット配信を行っており、その一部はオープンコースウェアとして広く一般にも公開している。これらの大量のコンテンツから必要なものを効率よく探し出すためには、高速で精度の高い検索技術が必要となる。放送大学ICT活用・遠隔教育センターでは、豊橋技術科学大学の研究グループと共同で、番組中に話された内容を効率よ

く検索できる技術の実証実験を行っている。これまでに、実際の放送授業番組を使って、音声認識の精度、検索速度、検索精度などの評価を行った。音声認識の精度が不十分でも検索でき、必要な部分だけを見られるなどの特徴を持っており、実用化を目指して研究を継続している。

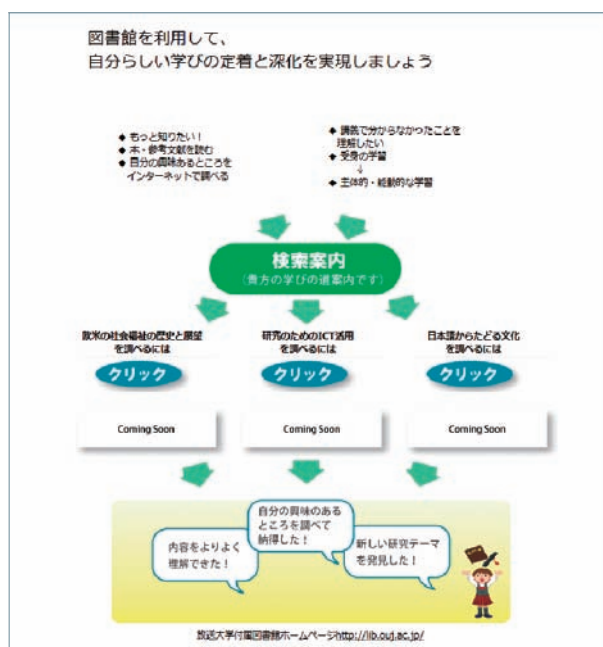


音声検索のイメージ

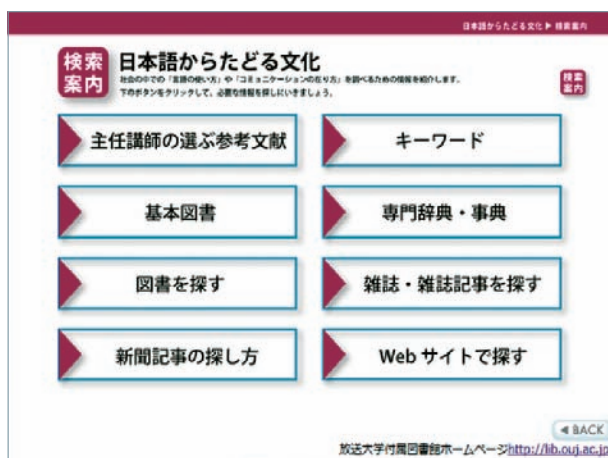
放送大学では、遠隔教育を受ける学生のニーズに応えるべく、附属図書館と全国の学習センター図書室およびサテライト・スペースが連携して、放送授業や面接授業、通信指導に欠かせない図書や雑誌を学生に提供してきた。インターネットの普及に伴い、電子ジャーナル、データベース、電子書籍が急速に普及し、学生がキャンパス外で学習できる環境が整備されている。これに伴って、図書館サービスも、学生が自宅や職場に居ながらにして学習に必要な資料や情報を容易に入手できるように、従来の来館型サービスに加えて、オンラインの電子図書館サービスを展開してきた。しかしながら、2011年度より開始された電

子図書館サービスは、学生にあまり使われていない。放送大学附属図書館では、学生向けに利用促進パンフレットを作成し、また電子ブック講習会を開催している。

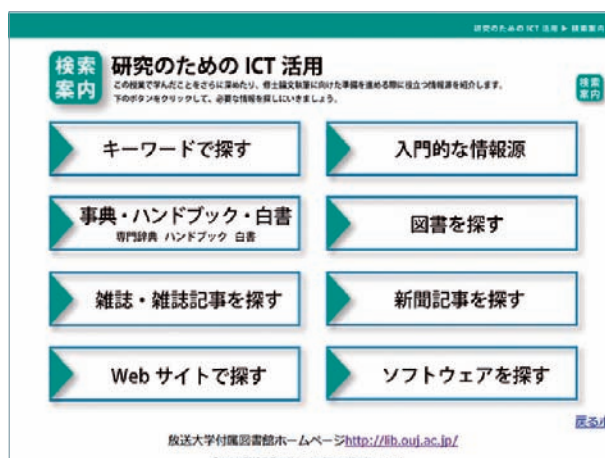
本プロジェクトでは、アクションプラン2012の第9項に謳われている「図書情報サービスの充実」、とりわけ、電子的資料の充実と学習情報の電子化に応えるべく、授業を担当する教員の協力を得て、学生の図書情報活用法を指導する補助教材として、パスファインダー（情報の調べ方案内）のモデルを作成している。また、学習センター図書室職員の専門知識向上をはかるため、図書室職員研修用の電子教材のモデルを作成している。



パスファインダーサイト初期画面
<http://resource01.code.ouj.ac.jp/pf/index.html>



「日本語からたどる文化」のパスファインダー

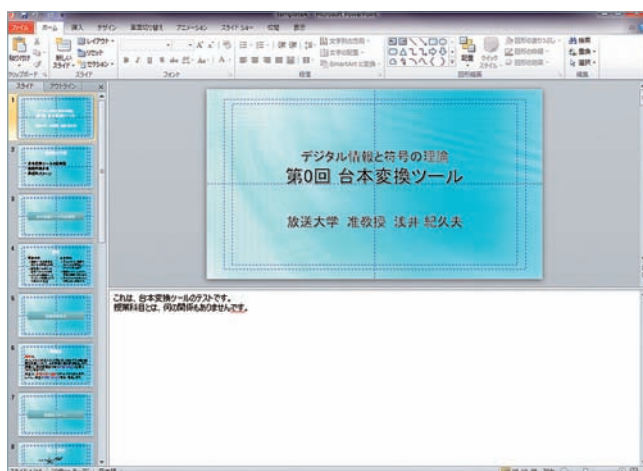


「研究のためのICT活用」のパスファインダー

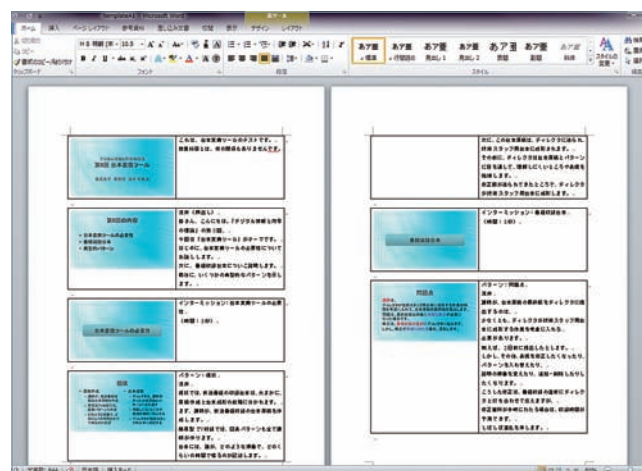
TV授業番組収録のための台本変換ツールの開発

放送大学の簡易型TV授業番組では、講師が台本原稿と図表を自ら作成し、これを基に、ディレクターが技術スタッフ用収録台本に仕上げる。講師はより良い授業を作るために、収録直前まで台本の修正、差し替え、順序の入れ換えを行う。そのたびに、講師の台本と技術スタッフの台本に齟齬が生じる。これを解消するために、用途に

合わせて台本のフォーマットを変換するツールを作成した。基本機能は、パワーポイントのノート部に台本の元になる原稿を書き入れれば、技術スタッフ用台本と講師読み上げ用台本の双方を同時に作成するというものである。これによって、最終段階まで共通のデータを共有しながら、作業を進めることができる。



台本原稿と図表パターン



変換された技術スタッフ用台本（プロトタイプ）

MOOCs (Massive Open Online Courses)と電子図書館のための国際セミナー

放送大学と生涯学習の将来にとって重要なテーマを選び、毎年、国際セミナーを開催している。「MOOCs (Massive Open Online Courses、大規模公開オンラインコース)と電子図書館のための国際セミナー」(2013年2月24・25日、九州大学で関係団体と共催)には、4名の海外招聘講演者のほか、あわせて100名近い研究者・教員・実践者が参集した。

MOOCsは1つのコースに万単位の学習者を集め、しかも単なる教材配信ではなく双方向的な教育を実現しようとするものである。欧米では公開教育にとどまらず、大学教育そのものの姿を変える可能性をもつとして注目されている。ただ、現在は中途終了者が多いのも事実で、セミナーでは、その質保証を行なうための、学習分析 (Learning Analytics) やビッグデータの活用について議論を深めた。



会場風景（日英同時通訳付き）



司会のICT活用・遠隔教育センター・山田恒夫教授

学習センターの活動、この1年

入学者の集い

4月と10月に、各学習センターで「入学者の集い」を開催した。全国で年間合計56,463名の学部学生と大学院生が入学し、放送大学における学びへの第1歩を踏み出した。



愛知学習センター



千葉学習センター



熊本学習センター



埼玉学習センター

名誉学生への表彰

2010年4月に、放送大学の5コースすべてを卒業した学生に対して、本学において多年にわたって修学を継続した意欲的な学習者を顕彰するとともに、本学学生の学習意欲の向上を図ることを目的として「名誉学生」の制度を設立した。

2012年度は、42名が名誉学生となった。名誉学生になった学生は3月の学位記授与式で表彰された。なお、2011年度の表彰より、5コースすべてを卒業したことに加え、人物、学習態度が良好であることが要件となっている。

名誉学生には、本学を卒業した後も、学習センターの各種施設を利用することができるなど各種特典を付与している。



新任の学習センター所長

2012年度は14の学習センターで新たに学習センター所長が就任して、学習センターのさらなる充実と発展のための活動に取り組んでいる。

■ 新任の学習センター所長一覧

青森学習センター	藁科 勝之(わらしな かつゆき)	山梨学習センター	井上 範夫(いのうえ のりお)
山形学習センター	飯澤 英昭(いゐざわ ひであき)	愛知学習センター	服部 重昭(はっとり しげあき)
群馬学習センター	加藤 幸一(かとう こういち)	滋賀学習センター	成瀬 龍夫(なるせ たつお)
東京渋谷学習センター	酒井 善則(さかい よしのり)	兵庫学習センター	青木 務(あおき つとむ)
東京文京学習センター	岡野 達雄(おかの たつお)	島根学習センター	足立 悦男(あだち えつお)
神奈川学習センター	濱田 嘉昭(はまだ よしあき)	岡山学習センター	岡田 雅夫(おかだ まさお)
新潟学習センター	伊藤 忠雄(いとう ただお)	佐賀学習センター	古賀 和文(こが かずふみ)

8学習センターで開設15周年・20周年の記念式典を開催

静岡、愛知、および富山の学習センターは開設20周年、福島、茨城、福井、鳥取および山口学習センターは開設15周年を迎え、記念式典を開催した。これらの学習センターでの記念講演会では岡部洋一学長が、『情報と教育』とい

うテーマで講演を行った。また、鳥取学習センターでは平井伸治知事にも出席いただき、祝辞を頂戴した。式典や講演等を通じ、参加者がふれ合い、学習センターの節目を祝った。



愛知学習センター 岡部学長による記念講演・祝賀会



静岡学習センター 記念祝典・岡部学長による記念講演会



鳥取学習センター 記念式典



富山学習センター 記念式典

地域に根ざした教育

面接授業

本年度も、多彩な面接授業が各学習センターで開講された。いろいろな学問分野の基礎だけではなく、地域に根ざす様々なテーマに関する授業が、大学教員に加えて、各界で活躍する講師が担当して開講され、多数の学生が受講した。

- 姫路サテライトスペース
「城郭の歴史と姫路城を学ぶ」
- 愛媛学習センター
「正岡子規」
- 熊本学習センター
「球磨の考古地誌と装飾古墳」



姫路サテライトスペース「城郭の歴史と姫路城を学ぶ」



愛媛学習センター「正岡子規」



熊本学習センター「球磨の考古地誌と装飾古墳」

地域をテーマとした講演会

秋田学習センターでは、連携セミナー『秋田をまなぶ講座』を企画し、シリーズとして毎年開催している。放送大学が色々な意味で地域にお世話になっていることから、センターとしてなにか県民の皆様にも貢献できるようなことはないかと考え、県立図書館をはじめ、県内の図書館の協力を得ている。この事業も今年度で4年目となり、年を重ねる毎に聴講者も増加してきている。このように毎年展開できたのは、地元についてなにか新たな発見の出来る機会を望む人が多くおられたからだ。地域に関する知識を積み重ねることは自分と地域との関わりを知り、深めることにも繋がる。



秋田をまなぶ講座シリーズⅣ

放送大学秋田学習センター・秋田県立図書館連携セミナー

10月13日(土) 13:30~15:00
「書を愉しむ」

■講師 秋田大学教育学部特別教授 長沼 健彦
■会場 由利本荘市文化交差点「カターレ」
■定員 50名
■申込先 由利本荘市中央図書館 TEL.018-6422-4900

10月27日(土) 13:30~15:00
「秋田のことば」を考える

■講師 秋田大学教育学部特別教授 佐藤 健
■会場 秋田県立図書館
■定員 50名
■申込先 秋田県立図書館 TEL.018-866-8400

11月10日(土) 13:30~15:00
「南極での越冬体験を語る」

■講師 秋田大学教育学部特別教授 二部 俊美
■会場 秋田県立図書館
■定員 50名
■申込先 秋田県立図書館 TEL.018-866-8400

12月15日(土) 13:30~15:00
「啄木の世界」

■講師 秋田大学教育学部特別教授 佐々木 久寿
■会場 秋田県立図書館
■定員 100名
■申込先 秋田県立図書館 TEL.018-866-8400

主催 放送大学秋田学習センター・秋田県立図書館
共催 由利本荘市中央図書館

集いの場としての学習センター

放送大学の学習センターでは、学生が勉学活動に利用するだけでなく、サークル活動や様々な共通関心事に関して、学生の交流活動が活発に行われ、学習センターが学生の集う場となっている。

研修旅行

全国の学習センターでは学生間の交流を図るため、また学生と職員の交流を図ることを目的として、研修旅行を実施している。



岐阜学習センター



愛知学習センター



高知学習センター



熊本学習センター

サークル・学生活動

学生同士の親睦を深め、学業のみにとどまらない豊かなキャンパスライフを築いてもらうために、放送大学はサークル活動を支援している。サークル活動の中で、年

齢やこれまでの人生経験がまったく異なる人達と、共通の目的を持って活動することは、素晴らしい人生経験となるであろう。



北海道学習センター「道央学習サークル」



山梨学習センター「太極拳クラブ」



大阪学習センター「山歩きの会」



鳥取学習センター「ノルディック・ウォークの会」



沖縄学習センター「琉舞サークル」

■ サークル・学生活動

学習センターでは、文化祭を開催し、学生の学習成果やサークル活動の成果を発表、披露している。文化祭は学

生同士の交流の場であると同時に、教職員、そして地域の人々も参加し、交流を深める機会となっている。



鳥取学習センター 文化祭



千葉学習センター 秋祭り



愛知学習センター 創作美術展



岐阜学習センター 作品展

■ 学生ボランティアによる学習相談「ピアサポートチーム」

東京文京学習センターでは本年度より学生間での学びの助け合いが出来るような仕組み「ピアサポートチーム」を立ち上げた。

来学期履修する科目は？ どうすれば認定心理士の資

格取得できるの？ 卒業研究について？ など学生の様々な学習上の悩みを学生のボランティアチームが相談にのっている。単位認定試験期間は一日で20件を超える相談もあり、半年間で300件ほどの相談を行った。



地域と密着する学習センター

学習センターでは、誰でも参加できる公開講演会、公開講座、シンポジウム等を多数開催している。放送大学学生に限らず、地域の人々に役立つ様々な話題について最新の知識が得られ、また共に考える機会を提供している。

講師は、放送大学関係者に加えて、それぞれの地域や分野で活躍する多彩な方々をお招きしている。以下は本年度開催されたもののほんの一例である。

公開講演会・公開講座

学習センター	演 題	講 師
青森学習センター	知らずに間違う日本語 ー日本人だから分らないー	青森学習センター所長 藁科 勝之
岩手学習センター	所長セミナー「三陸の津波防災の取組と復興」	岩手学習センター所長 齋藤 徳美
山形学習センター	最上の戦国を知る	山形学習センター事務長 保角 里志
秋田学習センター	ナラティブ（語り）と対人支援	秋田学習センター客員教授 柴田 健
宮城学習センター	24時間社会を生きる ー睡眠再考ー	東北大学教授 上埜 高志
福島学習センター	福島 原発と人びと	フォトジャーナリスト 広河 隆一
茨城学習センター	1/fゆらぎで癒しを求めよう	茨城学習センター所長 白石 昌武
群馬学習センター	ブータンから私たちが学ぶこと	放送大学教授 河合 明宣
埼玉学習センター	韓流歴史ドラマに見える朝鮮時代史像 ー歴史認識と史実のはざまー	放送大副学長 吉田 光男
東京文京学習センター	渡辺篤史×仙田満トークセッション	俳優 放送大学客員教授 渡辺 篤史 仙田 満
東京足立学習センター	さかなクンのギョギョッとおもしろトークショー	東京海洋大学客員准教授 さかなクン
神奈川学習センター	環境問題における嘘（うそ）と真（まこと）	神奈川学習センター所長 濱田 嘉昭
新潟学習センター	野菜・花栽培を楽しむコツ	放送大学客員教授 新美 芳二
愛知学習センター	奥三河の花祭り ー過去・現在・未来ー	名古屋大学准教授 佐々木 重洋
岐阜学習センター	言葉を雑談する	放送大学客員教授岐阜大学副学長 廣田 則夫
奈良学習センター	生命の起源・進化と生きる意味	奈良学習センター所長 池原 健二
鳥取学習センター	古事記1300年と方丈記800年	放送大学教授 五味 文彦
岡山学習センター	法と法律	岡山学習センター所長 岡田 雅夫
愛媛学習センター	松山の歴史発見 ー「坊っちゃん列車」はなぜドイツから来たか？ー	愛媛学習センター所長 森 孝明
佐賀学習センター	公開シンポジウム 健康人生・よりよい人間関係・地域づくり	日本大学教授 森 昭雄 佐賀大学教授 北川 慶子
佐賀学習センター	実践型農業マーケティングを語る	マーケティングプロデューサー 平岡 豊
熊本学習センター	人材開発セミナーこれからの『人材』 ーその育成と活用ー	神戸大学教授 上林 憲雄 ほか
沖縄学習センター	パネルディスカッション 中城村・北中城村の更なる発展を考える	沖縄国際大学名誉教授 比嘉 堅 ほか



熊本学習センター



鳥取学習センター



佐賀学習センター



沖縄学習センター

テレビ会議システムを活用した「看護師セミナー」

東京文京学習センターでは石川学習センター、大阪学習センター、福岡学習センターを同時中継する「看護師セミナー」を実施した。

中継で結ばれた各学習センターの参加者の方から講師に対し様々な質問があり、双方向のやり取りが行われ活発なセミナーになった。



テレビ会議システムのモニター画面

同窓会の活動

現在全国49カ所の学習センター及びサテライトスペースで同窓会が組織されている。学部全科の卒業生、修士全科の修了生なら参加することができ、会員数は11,000人を超えている。

また、同窓会連合会には、例年学位記授与式後に謝恩会を企画・運営していただいている。

今年は、東京のホテルニューオータニで開催され、600人もの卒業生が参加され、学生生活の思い出を学友や先生方と語り合った。また、各学習センターでの春・秋期に行われる学位記授与式や謝恩会などでも、各地の同窓会、あるいは学友会には、様々な形で協力をいただいている。



同窓会連合会会長 齋藤 成吾氏

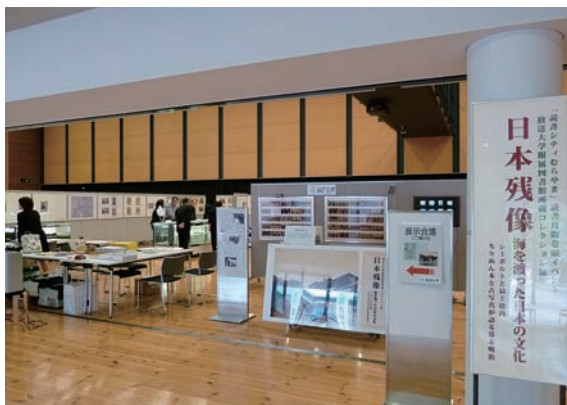
附属図書館所蔵コレクション展の開催

2012年度は、山形では村山市および村山市立図書館との共催で、鳥取では学習センター開設15周年の記念事業の一環としてコレクション展を開催した。

両会場においては、附属図書館所蔵の貴重なちりめん本と幕末・明治期の古写真（実物とパネル）を紹介、また

山形では山形県出身の北方探検家最上徳内と交流のあったシーボルトの『日本』初刊本を展示した。どちらの会場も放送大学への理解と認識を広めつつ、盛況のうちに終了した。

学習センター	期 間	場 所	展示内容	来場者数 (人)
山 形 学習センター	10月4日(木)～ 10月8日(月)	舘葉プラザ (山形県村山市)	日本残像 ～海を渡った日本の文化～ シーボルトと最上徳内、ちりめん本と古写真が語る幕末明治	665
鳥 取 学習センター	11月28日(水)～ 12月1日(土)	とりぎん文化会館 (鳥取県鳥取市)	古写真とちりめん本 ～幕末・明治の古写真と 美しい欧文挿絵本～	536



放送大学の新たな動き

2013年度 情報コース(学部)・情報学プログラム(大学院)の新設

放送大学では、教養学部には5つのコースを、大学院に6つのプログラムを設けて、諸方面諸分野に対する知的探求の実現を支援してきた。2013年度からこの体制に加えて新たに情報コース(学部)と情報学プログラム(大学院)とを設置し、学習と研究の体制を一層充実したものとする。

「情報」に関連する授業はこれまでも様々なコースで扱われてきたが、「情報」自体を体系的に学ぶことは目的

とされていなかった。新たなコースとプログラムでは、「情報」の概念を明確化し、理論体系に沿ってその性質や特徴を学ぶとともに、実際の情報技術がどのような場面で適用され、応用されているかを学ぶことができるようになる。このことにより、「情報」自体についての理解が深まり、「情報」が、人間・社会・環境といった様々な分野でどのように応用され影響を与えているかについて、広い視点で考えることができるようになる。

学 部 (教養学部)

5 コース	生活と福祉	6 コース	生活と福祉
	心理と教育		心理と教育
	社会と産業		社会と産業
	人間と文化		人間と文化
	自然と環境		情 報
			自然と環境

大 学 院 (文化研究科)

6 プログラム	生活健康科学	7 プログラム	生活健康科学
	人間発達科学		人間発達科学
	臨床心理学		臨床心理学
	社会経営科学		社会経営科学
	文化情報学		人 文 学
	自然環境科学		情 報 学
			自然環境科学

2013年放送大学創立30周年に向けて

放送大学は、2013年4月開学30周年を迎える。30年前の1983年4月に放送大学が設置され、1985年より学生の受け入れを開始した。この間、放送大学で学んだ学生の累積数は130万人を超え、卒業生は7万人を超えた。

また、30周年にさきがけキャッチフレーズを学生及び教職員から募った。合計556点もの応募があり、その中から教養学部 佐田富美子さんの作品「学ぶ。世界が変わる。」に決定しました。



30周年ロゴマーク



受賞された佐田富美子さん

アクション・プラン2012

アクション・プランは、放送大学の中期的な将来ビジョンを示したものであり、これを明示することにより、放送大学の関係者がビジョンを共有することができるようにするものである。

内容は、①卓越した教育型大学を目指す、②多様な学生の多様なニーズにこたえる、という2つのマスタープランと、具体的な10のアクションプランからなっている。

創立30年、日本と世界は急激な変化を遂げ、放送大学を取り巻く社会環境も大きく変化した。そのような変化の中で放送大学が現在置かれている状況を的確に認識し、目指す方向を共有することを目的としている。



初めての“都市型キャンパス”の誕生【東京渋谷学習センター】

東京渋谷学習センターは東京世田谷学習センターの閉所にもなって計画され、2012年4月に開設した。

渋谷駅から徒歩5分圏という至便の場所に立地し、放送大学では初めての“都市型キャンパス”としてスタートした。センター内には、コンパクトだが講義室、図書・視聴覚学習室、ゼミ等も可能な会議室、コミュニケーションの為のスペースが設置されている。面接授業はアクセスの良さを生かし、7時30分からの早朝講義、および18時からの夜間講義も行われており、通勤前後の時間帯を利用した学生に受講されている。平成24年度のセンター所属学生数は約1,000人増加、4,600人を超え、アクセスの良さが大きなメリットになっていることを示している。

1日に約300万人の乗降客が行き交う巨大ターミナル駅渋谷は、文化・ファッション・IT産業など様々なカルチャーが躍動する街である。この立地を生かした、学習意欲の強い人々への、勉学の機会を提供する拠点としての期待は大きい。



データで見る放送大学の概要

教職員数

[単位：人]

役 員	7	※1
学 長	1	
副 学 長	3	※2
教 員	87	
事務職員	241	
合 計	337	※3

(2013年3月31日現在)

※1 学長（理事）、副学長（理事）を含む

※2 副学長（理事）を含む

※3 重複があるため合計は一致しない

在学生数

[単位：人]

教養学部	
学生の種別等	在学生
全科履修生	53,599
選科履修生	18,131
科目履修生	7,838
特別聴講学生※	3,626
合 計	83,194

(2012年度第2学期)

大 学 院	
学生の種別等	在学生
修士全科生	1,096
修士選科生	3,721
修士科目生	890
合 計	5,707

(2012年度第2学期)

集中科目履修生	
学生の種別等	在学生
学校図書館司書教諭講習	856
看護師資格取得に資する科目	504
合 計	1,360

(2012年度)

(注) 特別聴講学生とは、他の大学等の学生で当該大学等と放送大学との協定に基づき、本学において科目の履修を行っている学生です。

入学者数

[単位：人]

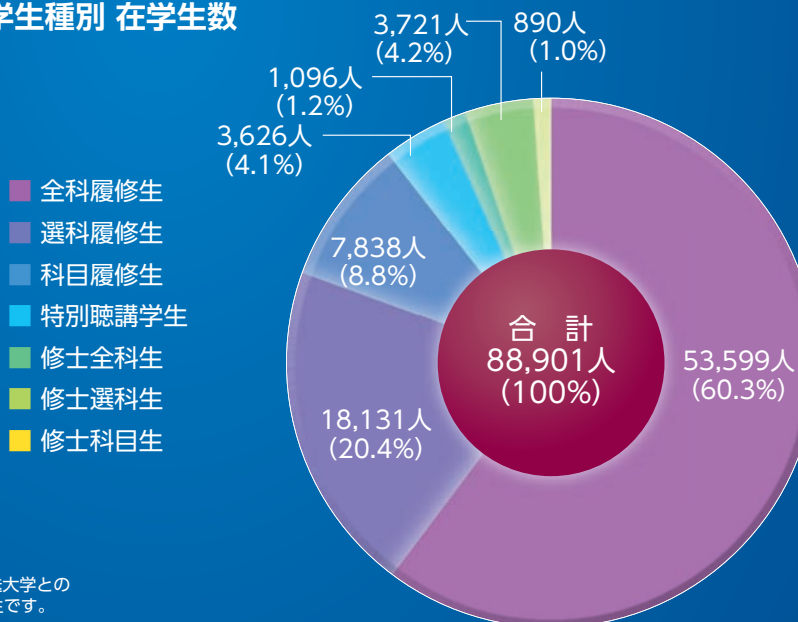
教養学部			
学生の種別等	1学期	2学期	合 計
全科履修生	7,963	4,448	12,411
選科履修生	11,866	6,228	18,094
科目履修生	7,290	7,838	15,128
特別聴講学生	1,520	3,626	5,146
合 計	28,639	22,140	50,779

(2012年度)

大 学 院			
学生の種別等	1 学期	2 学期	合 計
修士全科生	394	—	394
修士選科生	2,632	1,062	3,694
修士科目生	706	890	1,596
合 計	3,732	1,952	5,684

(2012年度)

学生種別 在学生数



単位互換協定締結校数

[単位：校]

学校の種別	校数
大 学	268
短 大	84
高 専	11
大 学 院	7
合 計	370

(2013年3月現在)

学部卒業者数

[単位：人]

1学期	2学期	合計	累計
1,592	2,911	4,503	74,768

(2012年度)

大学院修了者数

[単位：人]

1学期	2学期	合計	累計
2	311	313	3,857

(2012年度)



〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11
TEL:043-276-5111(総合受付)
<http://www.ouj.ac.jp/>